

KS-26-3（新青丸）共同利用研究航海報告書

- * 航海番号 KS-26-3次研究航海
- * 航海名称 福島沖日本海溝における底生生物の分布および深度に沿った多様化に関する研究
Biogeographic studies of benthic animals distributed in
continental shelf off Fukushima
- * 観測海域 福島沖、茨城沖
Off Fukushima, Off Ibaraki
- * 航海期間 令和 8年3月21日（土）～令和 8年3月29日（日）
- * 出港日時・場所 3月21日10時仙台塩釜港
- * 入港日時・場所 3月29日10時横須賀港
- * 寄港期間・場所 なし
- * 研究課題 福島沖日本海溝における底生生物の分布および深度に沿った多様化に関する研究
- * 主席研究員（氏名・所属・職名）
太田瑞希・北海道大学・JSPS 特別研究員
- * 研究内容，主調査者，観測項目
 1. 水温の変動に伴って分布域が変化する生物のモニタリングと表層流との関係の検証，
太田瑞希，3m ビームトロール， compact-TD
 2. ビームトロールおよび深海用そりネットを用いた底生生物採集による深海における生物の種分化機構の解明，太田瑞希，3m ビームトロール， そりネット

* 乗船研究者氏名・所属・職名

◎太田瑞希・北海道大学大学院理学研究院・JSPS 特別研究員

○石山玄樹・国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター・特定非常勤研究員

矢萩拓也・東京大学大気海洋研究所・助教

柚村七々実・東京大学大気海洋研究所・特任研究員

茂木隆伸・東京大学大学院理学系研究科・大学院生

元村優介・東京大学大学院新領域創成科学研究科・大学院生

浅田 要・東京大学大学院理学系研究科・大学院生

亀井遥香・東京大学大学院理学系研究科・大学院生

佐藤宏樹・東京大学大学院理学系研究科・大学院生

小林元樹・大阪教育大学・特任講師

高井 航・大阪教育大学・学部学生

松島吉伸・北海道大学大学院理学院・大学院生

関口翔悟・北海道大学大学院理学院・大学院生

柳 研介・千葉県立中央博物館・特任上席研究員

* 航跡・測点図

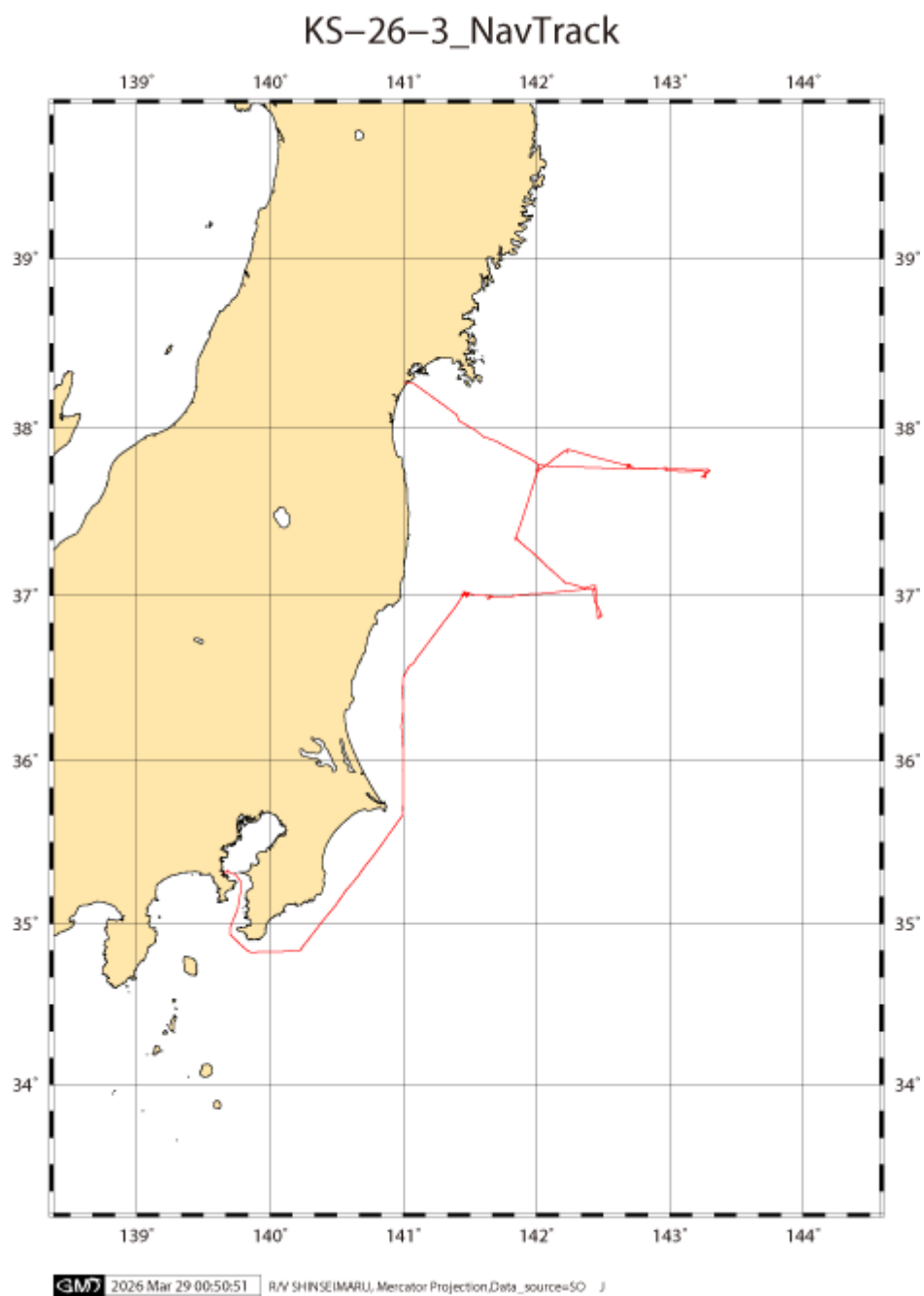


図1. 航跡図

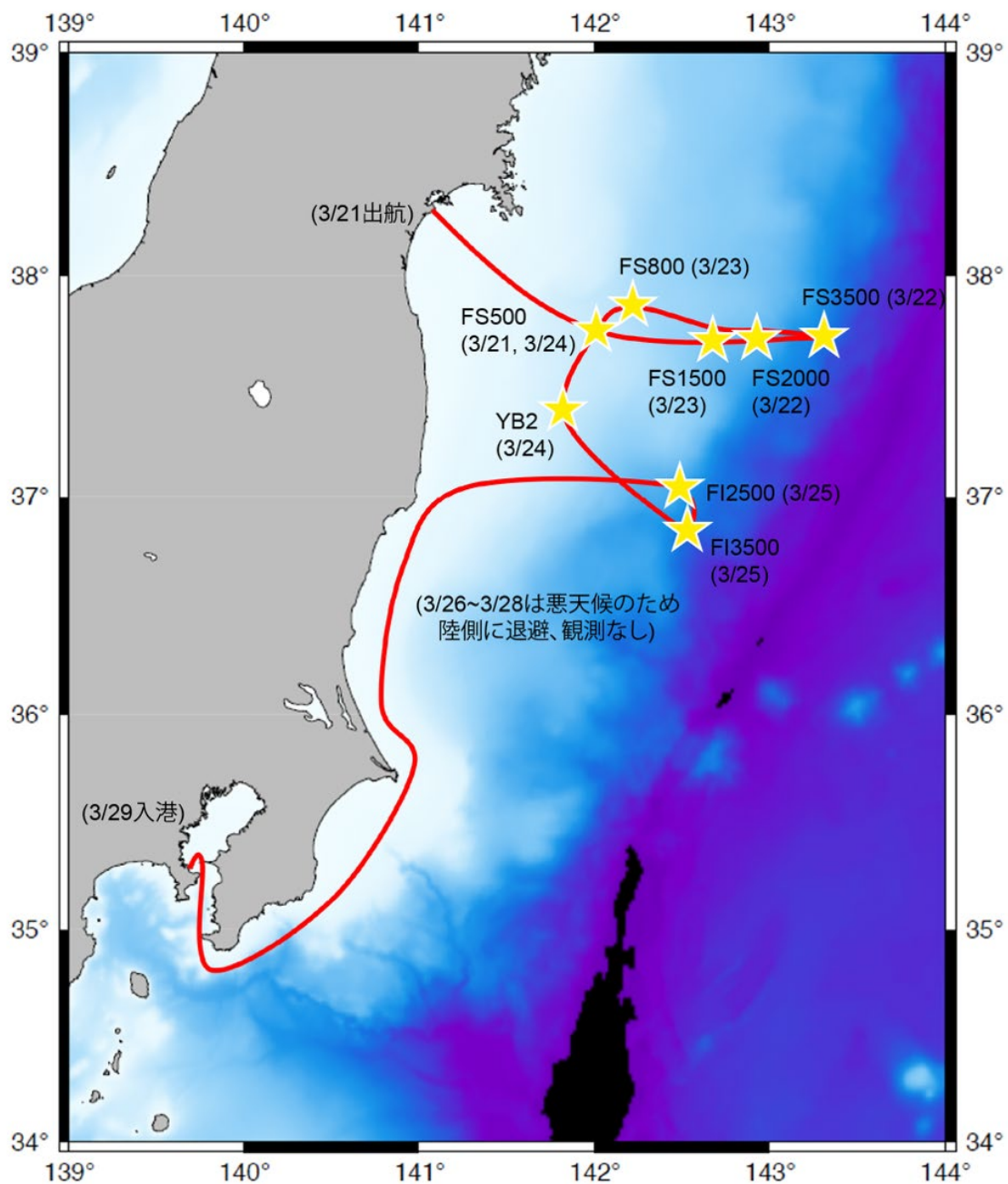


図2. 測点図

測点名の数字はおおよその水深を表す。括弧内は実施した日付を示す。

* 研究活動・観測の詳細や成果等について

当航海は、3月21日に仙台塩釜港を出港し、3/21-25日の間に福島県相馬市沖（北緯37.75度）、福島県浪江町沖（北緯37.3度）、福島県いわき市沖（北緯37度）、茨城県大津町沖（北緯36.8度）の各緯度線上において下記の観測を実施した（図2）。

- (1) ビームトロールによる生物採集
- (2) 深海用そりネットによる生物採集
- (3) 小型メモリ式 TD による海底付近の水温観測

(4) マルチビーム音響測深機による海底地形調査

(1)については予定していた11測点(+予備4点)中、相馬市沖の5点(水深約500, 800, 1500, 2000, 3500 m 地点)、浪江町沖の1点(水深約500 m 地点)、いわき市沖の1点(水深約2500 m 地点)、大津町沖の1点(水深約3500 m 地点)の計8点で実施した。各測点において船速0.5–1 kt, 30分曳網を行い、100– kg 程度の海底堆積物を採集した。堆積物を船上でふるい、底生生物を採取・動物群ごとに分類する作業(ソーティング)を行い選り分けた生物について各々の担当研究者が固定し陸上に持ち帰った。

(2)については予定していた11測点(+予備4点)中、相馬市沖の5点(水深約500, 800, 1500, 3500 m 地点)、浪江町沖の1点(水深約500 m 地点)、大津町沖の1点(水深約3500 m 地点)の計6点で実施した。各測点において船速1 kt, 30分曳網を行い、1 kg 程度の Epi-benthic 試料を採集した。試料を船上でふるい・ソーティングを行い、選り分けた生物について各々の担当研究者が固定し陸上に持ち帰った。

(3)については耐水圧2000 m の TD を使用したため、水深2000 m 以下の測点のみ(相馬市沖3点、浪江町沖1点)においてビームトロールとそりネット本体に取り付けて水深と水温の観測を行った。

(4)については各測点において測器の投入の前に行う予定だったが、船の MBES の不具合により3/22以降の観測を断念した。

サンプルに関しては分類群ごとに乗船/非乗船研究者が最適な方法で保管するほか、必要に応じて各研究者が窓口となり外部の研究者への提供が可能である。水温データ等の環境データについても主席研究員が管理し、外部への提供が可能である。

本航海で得られたサンプルの解析は各研究者が担当分類群ごとに行い、順次論文化・学会発表を行う。

Notice on Using

This cruise report is a preliminary documentation as of the end of cruise.

This report is not necessarily corrected even if there is any inaccurate description (i.e. taxonomic classifications). This report is subject to be revised without notice. Some data on this report may be raw or unprocessed. If you are going to use or refer the data on this report, it is recommended to ask the Chief Scientist for latest status.

Users of information on this report are requested to submit Publication Report to Cooperative Research Cruise office.

E-mail: kyodoriyo@aori.u-tokyo.ac.jp